



高病原性鳥インフルエンザが多発！卵の価格も高騰！！

3年連続で、全国的に高病原性鳥インフルエンザによる大きな被害が続いています。今シーズンは、3月8日時点で 25道県 78事例（94農場、3施設）で約1,570万羽が処分されています。なお、昨シーズンは25事例、189万羽、一作年シーズンは、52事例、987万羽であり、今シーズンがすでに大きく上回っています。

畜産全体に影響している飼料価格、光熱費、包材費、輸送費などの高騰に加え、採卵鶏農場での発生が多いことから鶏卵価格が高騰し、昨年2月に東京市場で卵Mサイズ1kgあたり 175円だった出荷価格は、今年2月で 327円になり、まだ上昇が続いています。スーパー、コンビニ、外食産業、食品製造業などにも大きな影響が生じています。



県内での発生はないものの、養鶏場から小売りなどへの鶏卵取引では、年間価格契約も多くあり、全てに市場価格が反映するわけではないため、飼料価格などの高騰から苦しい経営の農場も多いとのこと。

中海のコハクチョウの北帰行の始まりは、3月3日に確認されていますが、昨シーズンまでの発生を考えれば5月までは十分に注意が必要な状況です。鶏やうずらなどの少羽数飼養者の皆様もお気を付け願います。



県内西部の野生いのししに豚熱感染が広がる！



豚熱は、豚といのししの伝染病であり、人や牛などには感染しません。山口県で令和4年3月17日に、広島県で3月21日に野生いのししへの感染が確認され、県内では、5月19日に吉賀町で初めて確認されました。その後、令和5年3月7日までに、吉賀町、津和野町、浜田市弥栄町・三隅町で51頭が確認されています。

また、兵庫県では、令和3年3月16日に初めて確認されていましたが、徐々に西に広がり、約2年後の令和5年2月1日に鳥取県八頭町で確認されました。

四国では、徳島県、高知県、香川県で確認されています。

東と西から徐々に野生いのししの感染

地域が拡大してきています。特に感染地域の野生いのししと接触した場合や生息地域に入った場合には、靴や手、車のタイヤなどを洗浄・消毒し、なるべく感染が広がらないようお気を付け願います。



